

喜んだ。
我が子釈尊の成道の祝いにと、木の種を庭に植え毎日心を込めて水をあげ、育て、糸をつみ、美しい布を織つて、僧衣を縫い上げ贈つた。
その贈り物に釈尊はあまりにも深い母の愛を知

二、神経回路（シナプスとニューロン）

胎児期における神経回路の成長過程は妊娠の初期から発達が始まり、全盛期の感受期は誕生の三ヶ月までであるという。この期間の胎児のシナプスとニューロンの発達がそれを示しているといふ。人間の生涯に成長する神

片方は良い言葉、片方に悪い言葉を伝える実験データによると、良い言葉かけの水は美しい結晶を作り、輝いていた。悪い言葉かけの水はぐちゃぐちゃに乱れて結晶ができない。

すべての子どもたちの願いは愛してほしい、認めてほしい、信じてほしい、と考えるからである。

耶夫人の遺伝子であつたのだろう。

重要な、関りの子育てを、進められたことを現地に立つて知り、あらためて感銘を深くした。世界においてこれから子育ての参考として、進められることを切に願い、偉大な私尊を育てた母二人（姉妹）の人類への貢献に深く感謝を申し上げてこの章を終わらせていただく。

生命の始まりから赤ちゃんは意志があることをいろいろな事例を基に紹介され、赤ちゃんと関わる両親がこのことを認識した上で子育てが大切と、映像の特集によつて教えられた。

僧衣は教団の宝として後世まで大切にされた。その後り涙を流された。その後一見者となつても、なおも我が子を陰から見守り百二十歳で亡くなつたと、伝記はつたえている。

現代の子育て

り涙を流された。その後僧衣は教団の宝として後世まで大切にされた。

四
水の結晶

経回路の発達の最高期であり、この期間を過ぎると、開かれていたその部位が徐々に扇を閉ざす。

語り、仏教の瞑想法は摩

五、心と体のバランスの子育て
　　未来の子育ては以上のような人の発達の仕組みを親は学び、最も重要な我が子の心の成長を見守り、育てることを進めることと考える。

二千五百年前 現代の
科学で分った人格形成に

平成31年4月1日 第663号

親の学びの場として、二〇〇四年、親学会を有志とともに開いた。毎月各界の講師を招いて、未来を担うわが子のために、親はどのような考え方や願いをもつて子育てを進めたらよいかを、産科医、小児科医、細胞学、発達心理学、脳科学、教育者、保育士の諸先生。当日は講演後、講師先生と参加者一同のサロン形式で質問、意見の交換を進め、認識を確かめ、深め、現在に至っている。

参加者は子育て中の両親、祖父母、保育関係、学校関係、先生、有志の諸氏である。

摩耶夫人は、現ネパール国デブダハの当時の王族コーリヤ族の王女だった。デブダハは今もそこのままで遺跡群が点在する。

ラーマグラマー＝釈尊の八つ目の仏舎利塔が守られている。

ロヒニー河＝釈迦族との水利権の激しい争いを伝える河は今も水が流れている。

ダフネ山＝摩耶夫人瞑想完了の聖地

コーリヤ族は近隣諸国随一の資産家だった教育

ような願いを持つて子育てをされたのか」と、そのことを求めて十数年前、インド、ネパールの旅に出発した。

王女は最高の教育を与えられて育つた。成人した王女の美しさは諸国に伝わり、求婚者が殺到し、激しい争奪戦になつたため、王女はある夜ひとり領地内のダフネ山の森深く身を隠し、人々の幸せを願つて瞑想の修行に入った。

九力月の満願に天の啓示「王宮に帰つて、結婚して良い子を産み育て、人類に貢献をするよう」に王女は王宮に戻り、积迦族の王子淨飯王と結婚した。

ある夜、夢に摩耶夫人を、めがけて天空より白象が飛び降りてきた。その後積尊を受胎する。

当時、白象は「神」と敬われていた。摩耶夫人

は十力月の胎児期を神から与えられた尊い我が子と敬い、祈りの日々を過ごしたと伝える。

春爛漫の四月八日花々の咲き乱れるルンビニ公園で、待ち続けたわが子釈尊を出産し、七日後にあの世へと旅立った。

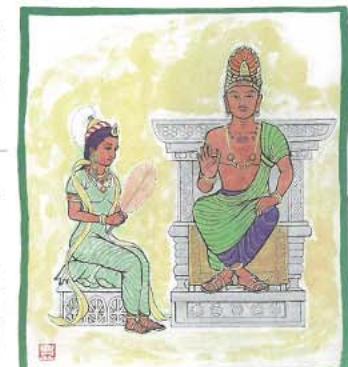
摩耶夫人の子育て

親の学びの場として、一

親学とは

現代に学ぶ

られた母、摩耶夫人のことをあるときから強く知りたいと願うようになつていつた。



淨飯王と摩耶夫人(繪…橋本豊治)